

我が

子育て ざっくばらん

その 129

子どもたちとの愛の儀式

ナオミ保育園（世田谷区）

保育士 下田 朋子

「“ぎゅアンドちゅアンドたっちアンドぎゅ”しよ」と、毎晩娘が私の膝に座ってきます。これは、「ぎゅーっとハグして、チュして、両手でタッチして、ぎゅーっとハグする」という、おやすみの挨拶です。息子は、簡易版となりつつも「ぎゅーしてー」と、膝に座ります。私は「今日も元気に過ごしてくれてありがとう」、「かわいい笑顔を今日も見られてうれしいよ。ありがとう」と抱きしめます。毎晩この子どもたちを抱きしめる瞬間が、幸せでたまりません。この挨拶が、いつ何をきっかけに始まったか覚えていませんが、この幸せに気づかせてくれたのは、東日本大震災でした。

私は、2019年4月、保育士になりました。その前は、国際協力NGOで、チャリティコンサートの事務局を17年務めました。夫は、同じNGOで働く職員でした。2011年3月、私は、6ヶ月の息子と、祖父の法要のため実家の愛媛に帰省していました。夫も法要に出るために、11日に愛媛に来る予定でした。その3月11日に震災が起きました。胸が潰れるような情報に、毎日泣いていました。夫は、いったん愛媛に来たものの、すぐ東京に戻り、その後、緊急支援活動のため気仙沼市に滞在することになりました。結局私と息子が、帰京したのはその年の5月でした。息子が離乳食で部屋を汚したとき、泣いて思うように動いてくれないとき、「もうっ！」と、怒ってはとします。この子が居てくれるから怒れ

るんだ…と。震災から9年が経過した今も、当時の記憶は鮮明で、私に「日常は有り難い」と教えてくれるのです。

この春、息子は小学4年生、娘は年長組になりました。息子は反抗、口ごたえをするようになり、言い合いになることが増えてきました。娘は嘘つくことを学びました（笑）。私の子育ての日々は、喜びの裏に、たくさんの反省があります。些細なことで怒ってしまったな、ひどい言い方したな…と。その度、ため息をついて落ち込んでも、子どもたちは、「仲直りの“ぎゅ”しよ」と来てくれます。母も家族に許され、そして愛されて母になるのだなあ、と実感します。そして、1日の締めくくりはいつもの挨拶。娘が耳もとでささやきます「これは幸せの儀式。お母さん、愛してるよ」と。大人びた言葉を言う娘にちょっとおかしさを感じつつ、子どもたちがぎゅっとしてくれることで、一日の疲れが癒され、明日の力が湧いてきます。1日1日が奇跡の積み重ね。家族でいられるこの時間に感謝し、子も親もみんな育て合っていきたいです！

